



# 鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

## NO-145 2023.4.3

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

### 大丈夫か！日本人のモラル

4年目に突入したコロナ感染防止のためのマスク生活は、ようやく緩和されようとしていますが、政府は、医療機関を受診する際や通勤ラッシュ時といった混雑した電車やバスに乗る際などには、マスクの着用を推奨する方針を決定しました。長引くコロナ禍の中で、特に公共交通機関利用の際には敏感になっている人が多い一方、日本人のモラル低下といった場面に最近良く遭遇します。昔から、若い者のモラルが低下していると言われますが、最近は、中年から高齢の方々についてもモラル低下が進んでいると感じます。電車やフェリー船内など、平気で携帯通話をする人、通話したまま乗り込んでくる人、マスク越しではありますが大声で会話をする人など、時には苛立ちさえ感じことがあります。特に携帯使用は、その場を離れ使用するか、着信拒否をして掛けなおすなどの対応が出来るはずなのに、周りの方への配慮もできない大人たちが増えています。このような方々が子や孫を養育・教育しているわけですから、日本全体がおかしな方向に進んでしまうは当たり前の現象なのかもしれません。回転寿司で悪ふざけをすることの善惡の判断がつかないばかりか、一歩間違えば死に至ることすら想像できない人が現れてしまうのです。そのことが報道されると、次々に模造犯がSNSに投稿するなど信じられない世の中となってしまいました。

副代表 満永正幸

また、最近は交通マナーの悪さも目に余るものがあります。特に多いのが信号無視です。私も人に言えた者ではありませんが。また、車間距離の近い運転をする方も多くいますし、煽り運転もよく見かけます。あらゆる事態を予測するためには、車間距離をある一定保つことが重要ですが、混雑時でも車間距離が近く、ヒヤッとする場面によく遭遇します。この交通マナーの悪さは年々ひどくなっているとさえ感じます。



今の日本社会、自分さえよければ良いとか1分1秒を無駄にしたくないなどの考えが横行し、他人を思いやる気持ちを持つ方が少なくなっています。モラルが完璧な人はいないかもしれません、私たち大人が、善惡の判断ができる当たり前の行動を心がけ、そのことを子孫に伝えていかなければ、些細なことによる事件事故は増え続けていくと思います。何とかしなくてはなりません。因みにモラルとは、「倫理」や「道徳意識」、人や生き物に対する思いやりを持った言動や、良心に従った善良な行動を起こすために守るべき基準を意味する言葉です。お互い、思い当たる節があると思います。このことを肝に銘じて、まずは自分から改めるようにしていきます。

## 『老朽原発うごかすな』ストップ川内原発!3.11 かごしまパレード



福島原発から 12 年を迎える 3 月 11 日(土) 午後、鹿児島市天文館公園で県内外からの 400 人余が参加して、初夏を思わせる陽気の下で開催されました。

主催者あいさつで平井一臣(「ストップ川内原発! 3.11 かごしま実行委員会」)代表は、「福島原発事故がなかったかのように川内原発 20 年延長どころか 60 年延長超えを内容とする増設を行おうとしている。いまだに 3 万人以上の方が避難されている。この実態を多くの方に伝える、特に若い世代の人たちへこの実情を知らせる責任が私たちにはある」と強調された。

基調提案は向原祥隆(3.11 実行委員会)事務局長から「川内原発は 1 号機が 1984 年、2 号機は 1985 年に稼働し、まもなく 40 年を迎える。こうした中で九電は昨年『20 年延長』を申請した。一方、岸田政権は今年 2 月 60 年延長を含む原発回帰政策を打ち出した。」「岸田首相はカーボンニュートラルとか、エネルギーひつ迫とかを理由としているが、福島を投げ捨て電力業界の意向に沿い、原発重視路線に戻ったというのが本音だろう」「原発は環境破壊そのもので、海を温め・魚が住めない。原発は稼働するだけで日常的に放射能を垂れ流ししている。」「川内原発には活断層が走っている」

「福島の事故では東電をはじめ誰も責任を取った人はいない。」「いま、私たち一人ひ

とりが行動を起こすときです。川内原発 20 年延長を問う県民投票で延長を阻止しよう!」と訴えられた。この後、分野ごとの報告で「宗教者:村上孝昭さん～薩摩川内市・永照寺」「農業者:山下博孝さん～かごしま合鴨米生産クラブ」「生協関係:中山仁志さん～生協コープかごしま」、次に運動団体「下馬場学さん～脱原発鹿児島フォーラム」「有馬裕子さん～原発ゼロをめざす鹿児島県民の会」、現地からの報告は「鳥原良子さん～川内原発建設反対連絡協議会」、特別報告「森雅美さん～原発なくそう! 九州川内訴訟弁護団」、連帶あいさつ「永野隆文さん～エコネットみなまた」「宝蔵俊二さん～宮崎の自然と未来を守る会」、そして特別アピール「野呂正和さん～県民投票の会準備会」から報告がありました。集会の最後に 3.11 集会アピール「未来ある子どもたちに、原発のない鹿児島を」が参加者一同の拍手で採択され、この後、参加者は鹿児島市内の目抜き通りを『私たちは福島を忘れていないぞ! 川内原発再稼働反対! 原発政策は破綻しているぞ! 原子力緊急事態は解除されていない!』とコールしながら行進。資金へのカンパ 188,892 円が寄せられた。

## 徳之島・喜界島での日米共同訓練反対、監視行動報告

2023 年 3 月 1 日から徳之島・喜界島において、2023 日米共同軍事訓練「アイアンファイスト（鉄の拳）」が行われました。わずか



4 ヶ月前の 2022 年 10 月に実施されたばかりのこの展開

に、驚くと

ともに抗議のために徳之島と喜界島を訪島しました。徳之島 3 町の首長への「訓練拡大中止・島民の安全の確保の要請」を求めた行動において、天城町は議会決定を経ていることから「自衛隊誘致は町民の総意」とし、他の 2 町も国の安全保障上の重要性を指摘しました。しかし後日、自衛隊誘致は 3 町合同で行っていることが判明し、そのことによって、短期間での合同軍事訓練の実施となったことが明らかになりました。過疎化対策・地域振興という島民の切実な願いにつけいる政府、防衛省の策動に憤りを感じました。

喜界島の主な産業はサトウキビ、白ゴマ、柑橘類、トマト、サツマイモ、メロンなどの栽培、加工に加え、スギラビーチや百之台展望台、キビ（サトウキビ）の一本道などで知られる観光地です。この自然豊かな喜界島は、1962 年に赤連集落に自衛隊の通信基地が開設され、20 年以上経過した

1985 年 11 月、当時の防衛庁が OTH (Over



The Horizon) レーダー受信基地の有力候補地として喜界島をあげ、さらには米軍も利用する「象のオリ」も計画していることが、連日マスコミ報道されました。以来、現地では、馬毛島の米軍 FCLP 基地建設問題に似た反対運動の経緯をたどり、21 年後の 2006 年 3 月に「象のオリ」は完成し、運用開始しました。このような歴史のある喜界島で、2023 日米共同軍事訓練の米空軍機や航空自衛隊機から陸自第 1 空挺団の隊員約 100 人がパラシュート降下し、地上に展開する訓練が初めて行われました。米軍部隊の参加はなかったものの、キビの一本道



に近い地域で行われた訓練は、観光地に似合わない異様な光景でした。

また、訓練に抗議していた私たちの横で、喜界島出身の隊員の降下に「家族でしょうか」拍手が沸き起こったことに唖然としました。近くで見学していた子どもたちに感想を聞くと「かっこよかった、やってみたい」との、声が帰ってきたことに驚きました。そこで「戦争をしている場所でもやりたい?」と聞くと「絶対に嫌だ。戦争には、いかない」と返ってきた言葉に唯一救われ、どこか安心した自分がいました。この子どもたちの将来のためにも、拡大していく日米共同軍事訓練に反対の声を上げなければと思った集会でした。



## 「2023 原発のない福島を！県民大集会」参加報告

代表 下馬場 學

3月19日(日)開催された福島県飯坂市での「県民大集会」に参加しました。黙祷の後集会が始まり、角田実行委員長は「福



島は今懸命に頑張っている。農業も漁業も信頼回復に向け努力している。除染のない山林では椎茸が栽培できないなどの後遺症がある。私たちの提案する『地上保管』など無視し汚染水の放出の画策・「GX」の閣議決定など許せない。福島の悲劇を2度と繰り返してはならない。」と強く訴えま



した。「さよなら原発 1000 万人アクション」  
藤本さんは明治からの歴史を振り返り「殖  
産興業・侵略戦争がどれだけ多くの人を犠  
牲にしたのか。『3・11』を思い出し、名も  
無き命に向き合うこと。汚したものを元に  
戻してほしいという浪江町民の言葉。」を紹  
介し、「GX」へと暴走する岸田政権を糾弾  
しました。

地元福島からの報告では、「復興は地元づくりから」と地域のNPO法人で堆肥作り・里山づくりにとりくんでいる菅野さんが、大学と共同実践によって土壤が汚染物質を押さえ込んでいることを突き止め、それらの活動が若者の新規就農に繋がっていること報告しました。安保法制反対運動から20・30代の仲間と活動している七海さんは「福島の現実の中での現政権のエネルギー

鹿児島県護憲平和フォーラム主催 5・3憲法記念日集会

2023年5月3日(水・祝) 10時~12時

「鹿児島市国際交流センター」鹿児島市加治屋町 19-18



た。若者からの声として、高校生平和大使がヒロシマ・ナガサキでの研修や東京での研修（各国の大使館への要請行動）を通して感じ考えたことそして今後の決意を語りました。「微力だけど無力じゃない」「高校卒業でも『大使』も印象的です。



「戦前は兵隊を・戦後は米を東京に 今原発の被害が東北に」。他のために誰かが犠牲になる社会を許さず、声を出し続けていかなければならないと、改めて強く感じました。

講師：飯滋明（名古屋学院大学教授）氏